第３章　立地適正化計画における基本的な方針

１　上位計画・重要な関連計画における方向性

立地適正化計画における将来目標、都市構造及び都市づくりの方針は、市のまちづくりの最上位計画である「第２次たつの市総合計画」、立地適正化計画を含む都市計画に関する基本的な方針を示す「たつの市都市計画マスタープラン」及びコンパクトシティ・プラス・ネットワークを実現するうえで密接な連携を要する「たつの市地域公共交通網形成計画」等の方向性を踏まえ設定するため、各計画について整理します。

（１）第２次たつの市総合計画（平成２９年３月策定）

■まちづくりの将来像

『　みんなで創る　快適実感都市「たつの」　』

■まちづくりの基本目標

１　安全・安心なまちづくりへの挑戦
「自然を守り　だれもが安全に安心して住み続けたくなるまち」

２　やすらぎづくりへの挑戦
「子育てにやさしく　すべての市民が健やかに暮らせるまち」

３　ひとづくりへの挑戦
「学都たつの輝きと　歴史・文化が薫るまち」

４　にぎわいづくりへの挑戦
「新たな地域産業の創出と　観光立市を目指すにぎわいのまち」

５　ふるさとづくりへの挑戦
「市民や地域と協働し　地域力あふれるまち」

立地適正化計画に係る主な施策

施策目標
良質な住環境の整備

施策内容
「コンパクトで持続可能なまちづくりの推進」

■計画の目的と役割

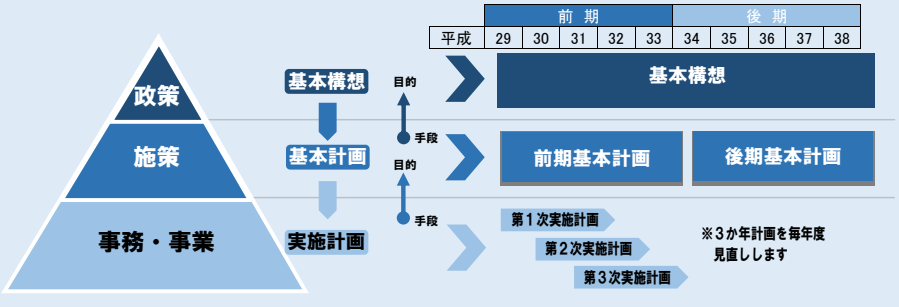
市民と行政が一体となってまちづくりに取り組むために、長期的な視点で社会情勢の変化を見据えながら、本市が実現しようとする将来像及びその実現に向けて展開する各分野の施策を示し、計画的に実行していくための指針として策定するもので、次の３つの役割を担います。

総合計画

- まちづくりの長期的かつ総合的な指針であり、市政をはじめ地域経営の根幹となるもの
- 市民・行政・関係団体・企業などのまちづくりのすべての主体が共有し、協働で取り組むべきまちづくりの指針となるもの
- 国や兵庫県が広域的な諸施策を推進するに当たり、本市の基本的立場を明らかにするもの

■計画の期間

１０年計画の「基本構想」と５年計画の「基本計画」及び３年計画の「実施計画」で構成



（２）たつの市都市計画マスタープラン（平成２７年１２月改定）

■将来の都市像

「自然と歴史と先端科学技術が調和し一人ひとりが輝くまち」

清流揖保川や豊かな緑、瀬戸内海といった自然環境の保全と活用、歴史的な町並みの保全や再生、恵まれた交通機能を生かしながら、地場産業や最先端技術を擁する新産業の振興などに積極的に取り組みます。

さらに、播磨科学公園都市については、兵庫県関係機関との協力のもと、整備促進を図るとともに、雇用機会の創出、教育文化の高揚、健康福祉の増進等に寄与することを目指します。

また、人口減少や少子高齢化に対応できる持続可能なコンパクトな都市づくりに向け、市民が快適に暮らすことができる住環境の創出や定住促進に努めるほか、まちを訪れる人を思いやる心を育てる人づくりなど、まちづくりの主役である「人」を大切にした取り組みを進めるとともに、市民、事業者、行政の参画と協働によるまちづくりを展開し、新しい文化を切り拓き、人々が輝く、西播磨地域の核となる都市づくりを目指します。

■都市づくりの基本目標

将来都市像の実現を図るため、都市計画の視点から取り組むべき都市づくりの目標を次のとおり定め、市民・事業者・行政等がこれらの目標を共有し、協力しながらたつの市の都市づくりに取り組みます。

自然と歴史が調和した美しいまちづくり	◆魅力ある水と緑の創出 ◆町並みの保全・活用 ◆地域資源を生かしたレクリエーションゾーンの形成 ◆循環型社会の構築
魅力ある産業の振興による活力あるまちづくり	◆先端科学技術の集積と活用 ◆産業拠点の創出 ◆地場産業、農林水産業の活性化 ◆地域資源を生かした魅力的なまちづくり
交流と連携による快適で暮らしやすい安全なまちづくり	◆持続可能なコンパクトなまちづくり ◆高齢者や子育て世代が安心して暮らせる快適なまちづくり ◆にぎわいあるまちの顔の創出 ◆生活拠点間を連結する交通ネットワークの形成

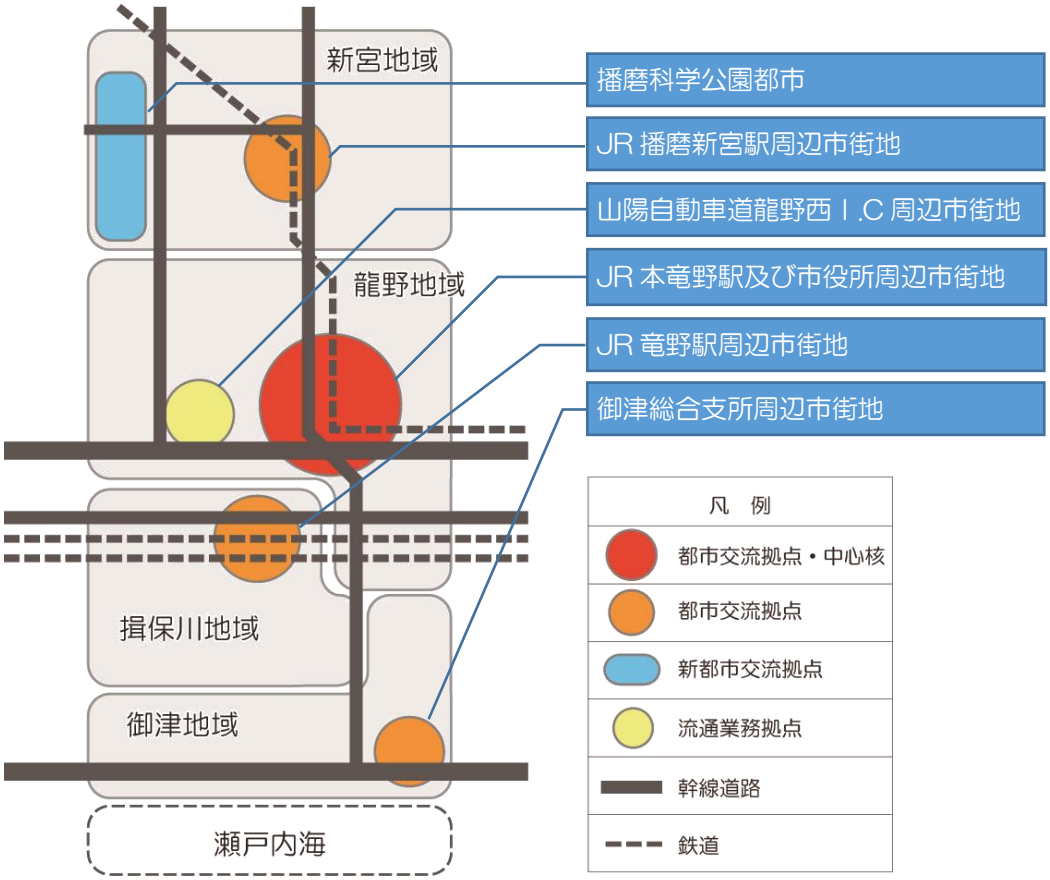
■将来の都市構造

＜都市構造の基本的な考え方＞

本市は１市３町が合併したまちであり、それぞれの地域が１つの都市として成立する都市機能を有しています。今後ともその機能を保ち、かつ、充実させつつ連携を図っていくことが望ましいといえます。

そのため、旧１市３町を地域単位とし、各地域の中心部に都市機能や生活利便施設を集積させることにより、その周辺に住宅地を誘導するコンパクトな市街地の形成を図ります。

さらに、最も公共施設や商業施設の集積度が高い龍野地域の都市交流拠点を「中心核」と定め、各地域の都市交流拠点や新都市交流拠点、流通業務拠点を「地域核」とし、道路や公共交通機関、情報などのネットワークで有機的に連結する多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指します。



■目標年次

中間目標年次：平成 32 年（2020 年）
長期目標年次：平成 42 年（2030 年）
概ね５年ごとに計画の見直し

（３）たつの市地域公共交通網形成計画（平成２９年３月策定）

■基本理念

『みんなでお出かけできる元気なまち「たつの」』

■計画の目標

計画目標1. ネットワークをつくる
市民の日常的な外出や交流を支える公共交通ネットワークの構築

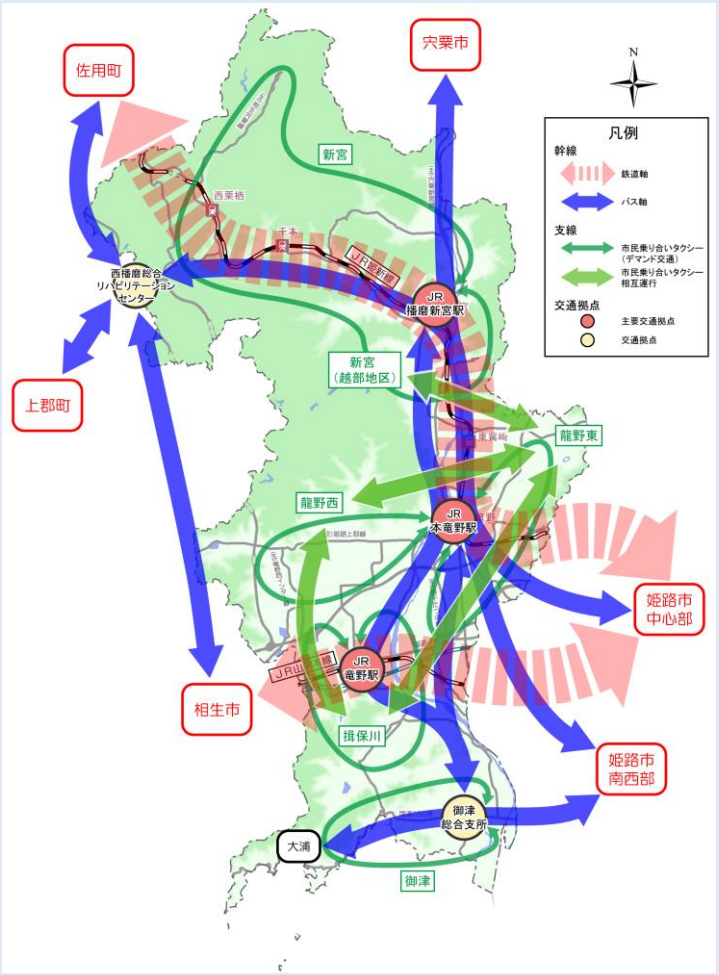
計画目標 2. 連携してまもる
利用しやすい公共交通に向けた、交通事業者や各交通手段の相互連携

計画目標 3. 地域と一体となって育てる
市民・企業や他分野との協働による、公共交通を中心としたまちづくりの推進

■目指すべき公共交通網

交通需要が高い、市内の各地域や市外を結ぶ定時定路線型の公共交通を「幹線」とし、鉄道軸及びバス軸がその役割を担います。また、幹線では網羅できない地域においては、「支線」として市民乗り合いタクシー（デマンド交通）がきめ細やかな交通需要に対応し、公共交通空白地の解消を推進します。

さらに、「たつの市都市計画マスタープラン」及び「たつの市立地適正化計画」において定められた都市交流拠点及び新都市交流拠点のうち、幹線及び支線が結節する鉄道駅を「主要交通拠点」、幹線及び支線が結節する交通結節点を「交通拠点」とします。



■計画期間

平成 29 年度（2017 年度）から平成 33 年度（2021 年度）
平成 34 年度（2022 年度）以降は、５年間隔で計画の見直し

２　立地適正化計画における将来目標

市の最上位計画である「第２次たつの市総合計画」では、「自信と希望に満ちた“たつの市”を目指して、市民一人ひとりが輝く自立・連携・協働のまちづくり」を理念とし、まちづくりの将来像として『みんなで創る　快適実感都市「たつの」』の実現を目指しています。また、まちづくりの基本目標の一つに「安全・安心なまちづくりへの挑戦」を掲げ、人口減少や少子高齢化に対応できるコンパクトで持続可能なまちづくりを目指すこととしています。

さらに、「たつの市都市計画マスタープラン」においても同様に、人口減少や少子高齢化に対応できるコンパクトで持続可能なまちづくりを目指すこととし、「都市づくりの基本目標」の一つとして、「交流と連携による快適で暮らしやすい安全なまちづくり」を示しています。また、「将来の都市構造」において、旧１市３町のそれぞれの地域が１つの都市として成立する都市機能を有していることから、「多極ネットワーク型コンパクトシティの実現」を目指すこととしています。

本計画では、これらの上位計画の将来像や基本目標等を踏まえるとともに、公共交通の整備による交通ネットワークの構築により地域間の交流と連携を深め、都市防災機能の強化や高齢者や子育て世代をはじめとしたすべての人が、快適で安全な暮らしを実感できるまちづくりを進めることとし、「将来目標」を次のとおり設定します。

●第２次たつの市総合計画

『みんなで創る
快適実感都市
「たつの」』

まちづくりの将来像より

●たつの市都市計画マスタープラン

『交流と連携による快適で暮らしやすい安全なまちづくり』

都市づくりの基本目標より

＋

『多極ネットワーク型コンパクトシティの実現』

将来の都市構造より

＜立地適正化計画における将来目標＞

『快適で安全な暮らしを実感できる　交流と連携による多極ネットワーク型コンパクトシティの実現』

３　立地適正化計画における目指すべき都市構造

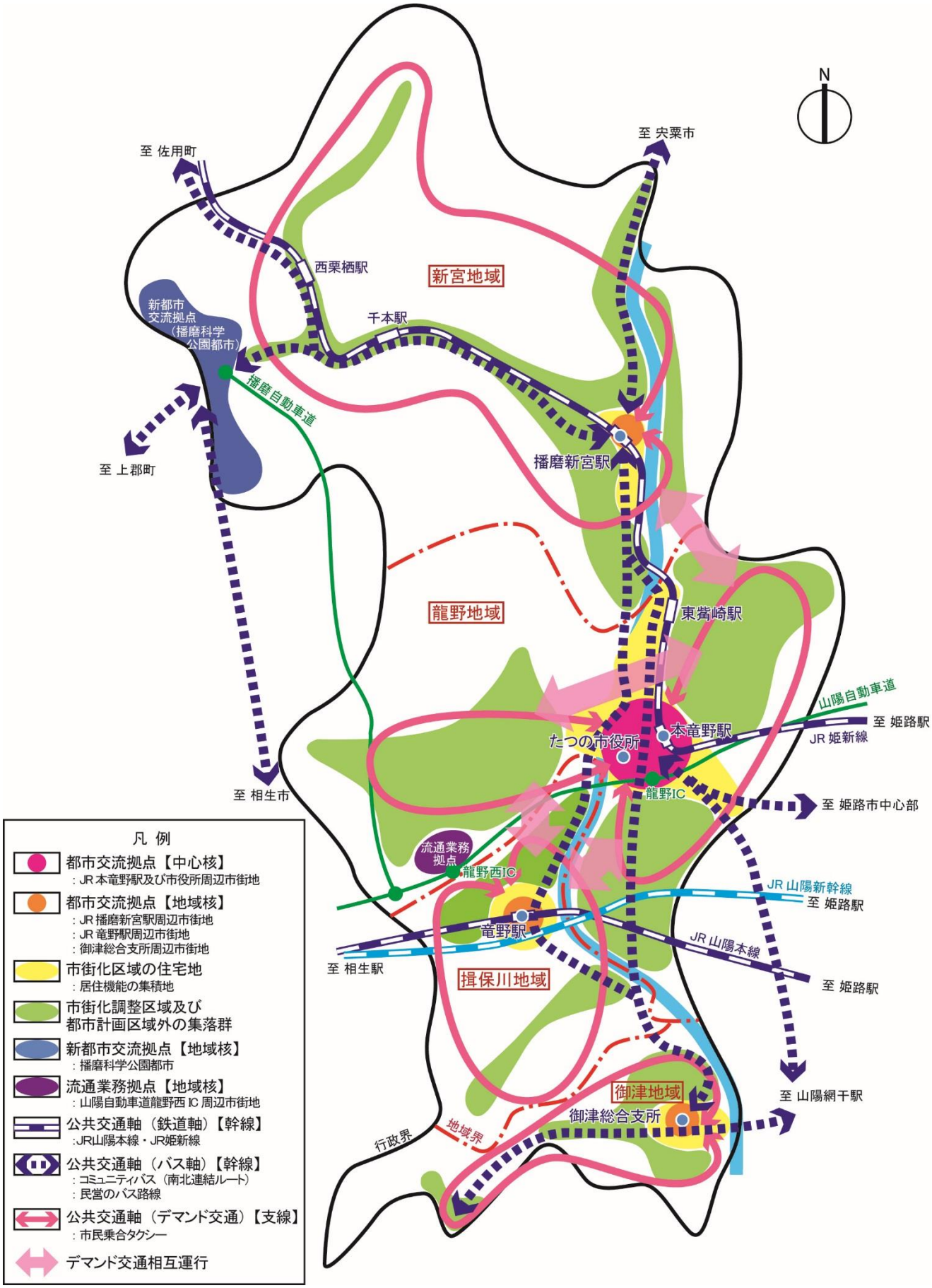
本計画において目指すべき都市構造は、「たつの市都市計画マスタープラン」の「将来の都市構造」及び「たつの市地域公共交通網形成計画」の「目指すべき公共交通網」と整合を図るとともに、「ＪＲ本竜野駅及び市役所周辺市街地」、「ＪＲ播磨新宮駅周辺市街地」、「ＪＲ竜野駅周辺市街地」、「御津総合支所周辺市街地」に生活利便施設等の都市機能が集積している現状を踏まえ、本計画においても同様に、「都市交流拠点」として定め、最も公共施設や商業施設等の集積度が高い龍野地域の都市交流拠点を「中心核」とし、新宮地域、揖保川地域、御津地域の都市交流拠点を「地域核」とします。

さらに、これらの４つの「都市交流拠点」を結び、医療機関や日常的な買物先へ公共交通を利用して移動できる交通手段を確保するため、利便性の高い公共交通ネットワークを構築する「公共交通軸」を設定します。「公共交通軸」は、公共交通の需要が多く、たつの市内の各地域や市外を結ぶ定時定路線型の公共交通を「幹線軸」とし、鉄道軸及びバス軸がその役割を担います。

また、周辺集落群など幹線軸では網羅できない地域においては、鉄道やバスの幹線軸、生活利便施設までの市民の移動手段を確保する支線としての役割を担う「支線軸」として、デマンド交通できめ細やかな交通需要に対応します。

これにより、旧１市3町を地域単位とし、各地域の中心部である「都市交流拠点」に生活利便施設等の都市機能を集積させ、その周辺地に住宅を誘導するコンパクトな市街地の形成を図る都市構造とし、各地域の「都市交流拠点」等を公共交通ネットワークで結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指します。

【目指すべき都市構造図】


N
至 佐用町
至 宍粟市
西栗栖駅
新宮地域
新都市
交流拠点
（播磨科学
公園都市）
千本駅
播磨自動車道
至 上郡町
播磨新宮駅
龍野地域
東觜崎駅
山陽自動車道
至 姫路駅
JR 姫新線
本竜野駅
たつの市役所
龍野IC
至 姫路市中心部
至 相生市
流通業務
拠点
龍野西IC
JR 山陽新幹線
至 姫路駅
竜野駅
JR 山陽本線
至 相生駅
揖保川地域
至 姫路駅
至 山陽網干駅
御津地域
御津総合支所
行政界
地域界
凡 例
都市交流拠点【中心核】
：JR 本竜野駅及び市役所周辺市街地
都市交流拠点【地域核】
：JR 播磨新宮駅周辺市街地
：JR 竜野駅周辺市街地
：御津総合支所周辺市街地
市街化区域の住宅地
：居住機能の集積地
市街化調整区域及び
都市計画区域外の集落群
新都市交流拠点【地域核】
：播磨科学公園都市
流通業務拠点【地域核】
：山陽自動車道龍野西 IC 周辺市街地
公共交通軸（鉄道軸）【幹線】
：JR山陽本線・JR姫新線
公共交通軸（バス軸）【幹線】
：コミュニティバス（南北連結ルート）
：民営のバス路線
公共交通軸（デマンド交通）【支線】
：市民乗合タクシー
デマンド交通相互運行

４　立地適正化計画における都市づくりの方針

「たつの市都市計画マスタープラン」の「都市づくりの基本目標」と整合を図りつつ、都市構造上の問題点と課題の解決と、本計画の将来の都市像「快適で安全な暮らしを実感できる 交流と連携による多極ネットワーク型コンパクトシティの実現」を図るため、次のとおり都市づくりの方針を定めます。

◆コンパクトで持続可能なまちづくり

〇都市交流拠点及びその周辺に生活利便施設の維持・誘導を図ります。
〇都市交流拠点周辺において、公共交通の幹線軸（鉄道・路線バス・コミュニティバス）によりアクセス可能な交通利便性の高い市街地への居住の誘導を図ります。
〇公共交通の幹線軸と支線軸（デマンド交通）との連携により、周辺の集落群からのアクセス向上を促進し、市街地の活性化を図ります。
〇「中播磨圏域の立地適正化の方針」に基づき、高次都市機能等の必要な機能を沿線市町と分担・連携することで効率化や活性化を図ります。また、「たつの市公共建築物再編実施計画」に基づき、施設の複合化等による都市機能の集約化を図り、効率的・効果的な生活利便施設の維持・誘導を図ります。

◆都市交流拠点間及び周辺の集落群を連結する交通ネットワークの形成

〇ＪＲ姫新線の利便性向上対策やコミュニティバスの利用を促進し、既存交通機関の利便性向上を図ります。
〇ＪＲ各駅前を中心とした交通結節点の機能強化を図ります。
〇きめ細やかな交通需要に対応するデマンド交通の導入により、市内全域における利便性の確保を図ります。

◆高齢者や子育て世代をはじめとした全ての人が安心して暮らせる快適なまちづくり

〇ユニバーサル社会づくりや歩いて暮らせるまちづくりの推進による全ての人が暮らしやすいまちの形成を図ります。
〇居住誘導区域への新たな宅地の供給や空き家等を有効活用した良質な住宅ストックの供給により、子育て世代・若者世代の転入促進や、ＵＩＪターンなどによる移住・定住の促進を図ります。

◆にぎわいに満ちた活力のあるまちづくり

〇中心市街地（ＪＲ本竜野周辺～山陽自動車道龍野Ｉ.Ｃ周辺）において、大型商業施設などの集客施設の立地誘導など商業・業務機能の活性化を図ります。
〇駅周辺整備によりまちの顔を創出し、駅周辺の活性化を図ります。
〇各地域の個性豊かな活力あるまちづくりや地域資源を生かした魅力的なまちづくりを進め、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

◆安心して暮らせる安全なまちづくり

〇災害の危険性が高い地域における都市防災機能や防災体制の強化による安全・安心なまちづくりを推進します。
〇建築物等の耐震化や避難地・避難路の整備、風水害対策（河川改修、雨水幹線整備、山林整備等）による安全な住宅地の形成を図ります。

5　地域別のまちづくりの方針

前項の「都市づくりの方針」基本とし、「地域別のまちづくりの方針」では、地域の現状や人口特性を踏まえ、まちづくりの方針を定めます。

（１）龍野地域のまちづくりの方針

◆地域の現況

〇龍野地域は、市の中央部に位置し、東は姫路市と太子町、西は相生市に接しており、特に山陽自動車道による阪神方面への交通利便性が高い地域です。中心市街地には大型店舗のほか、地場産業(醤油・素麺等)の本社や工場などが集積し、地域の中枢機能を担っています。また、ＪＲ本竜野駅を中心に商業・業務施設が立地し、その周辺には、主に住宅地を中心とした土地利用が図られています。そのほか、土師・南山地区、播磨龍野企業団地及びその周辺地では、流通業務施設や多様な工場が集積しています。

◆地域の人口特性

〇平成 22 年（2010 年）の人口は 40,359 人で、平成 52 年（2040 年）には 32,557 人と 7,802 人が減少する見通しです。

〇ＪＲ本竜野駅周辺、神岡町上横内、揖保町松原、揖西町中垣内などにおいて特に人口減少が大きくなる見通しです。

〇平成 22 年（2010 年）の高齢化率は 22.8%で、平成 52 年（2040 年）には 33.9%と高くなる見通しです。また、高齢者人口は 1,826 人と全地域で最も増加する見通しです。

◆都市計画マスタープランにおけるまちづくりの目標

〇にぎわいある商業、活気ある工業、地場産業が集積する拠点づくり

〇詩情豊かな城下町の町並みの保全・活用による観光地づくり

〇美しい自然環境や歴史環境と調和した住みよいまちづくり

◆まちづくりの方針

〇商業、教育文化、行政機能などの多様な既存の都市機能を維持・活用するとともに、商業、医療などの新たな生活利便施設等の誘導を図ることにより、中心核にふさわしい魅力と活力ある市街地の形成を進めます。

〇ＪＲ本竜野駅から山陽自動車道龍野Ｉ.Ｃ周辺に至る幹線沿道には、大型商業施設などの集客施設の立地誘導を図ります。

〇ＪＲ本竜野駅周辺や市役所周辺など、商業施設と住宅が調和した利便性が高く良好な住環境の形成を進めるとともに、空き家等を有効活用した良質な住宅ストックの供給により子育て世代・若者世代の転入促進や、ＵＩＪターンなどによる移住・定住促進を図ります。

〇龍野城周辺地区における歴史的町並みと良好な居住環境の維持保全を図り、快適な居住空間を形成するとともに、歴史的景観形成地区を活用した魅力ある観光拠点づくりを推進し、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

〇揖保川を中心とした美しい自然環境や誇るべき歴史環境と調和した快適な居住環境の形成を目指し、都市防災機能や防災体制の強化による安全・安心なまちづくりの推進を図ります。また、揖保川、林田川等の改修を促進するとともに建築物の耐震化、避難路の整備等の防災基盤整備を進め、安全な住宅地を確保します。

（２）新宮地域のまちづくりの方針

◆地域の現況

〇新宮地域は、市の北部に位置し、東は姫路市、西は佐用町・上郡町、南は相生市、北は宍粟市に接しており、西端部の播磨科学公園都市には、先端科学技術産業、学術研究、医療施設、良好な住環境などの機能が複合した新都市が位置しています。また、地域の約７割を山林が占め、揖保川と栗栖川周辺に広がる平地部に市街地や集落地、農地などが広がり、ＪＲ播磨新宮駅周辺が、まちの中心となっています。

◆地域の人口特性

〇平成 22 年（2010 年）の人口は 16,216 人で、平成 52 年（2040 年）には 12,432 人と 3,784 人が減少する見通しです。

〇ＪＲ播磨新宮駅周辺、井野原、段之上などにおいて特に人口減少が大きくなる見通しです。

〇平成 22 年（2010 年）の高齢化率は 25.5%で、平成 52 年（2040 年）においては 33.8%と全地域で最も低くなる見通しです。なお、高齢者人口は 67 人の増加となる見通しです。

◆都市計画マスタープランにおけるまちづくりの目標

〇播磨科学公園都市と連携した魅力ある拠点づくり

〇水と緑が調和するだれもが住み続けられるまちづくり

◆まちづくりの方針

〇商業、教育文化、行政機能などの多様な既存の都市機能を維持・活用するとともに、商業、医療などの新たな生活利便施設等の誘導を図ることにより、地域核にふさわしい魅力と活力ある市街地の形成を進めます。

〇特にＪＲ播磨新宮駅南から国道 179 号の南側の栗栖川周辺に至る旧新宮高等学校跡地を含めた区域においては、商業施設の立地誘導を進めます。また、国道 179 号の南北路線の沿道に医療施設、商業施設などの維持・誘導を図ります。

〇ＪＲ播磨新宮駅などの交通利便性を生かし、空き家等を有効活用した良質な住宅ストックの供給により子育て世代・若者世代の転入促進や、ＵＩＪターンなどによる移住・定住促進を図ります。

〇揖保川、栗栖川などの河川や都市公園などの公園緑地については自然景観を保全するほか幹線道路における植栽、辻空間の修景、市民、事業者との協力による沿道緑化を推進し、快適な居住空間の形成を図ります。

〇都市防災機能や防災体制の強化による安全・安心なまちづくりの推進を図ります。また、揖保川、栗栖川の河川改修を促進するとともに、建築物の耐震化、避難路の整備等の防災基盤整備を進め、安全な住宅地を確保します。

（３）揖保川地域のまちづくりの方針

◆地域の現況

〇揖保川地域は、市の中央部からやや南に位置し、西は相生市に接しており、姫路市や阪神間への通勤や通学のベッドタウンとしての性格が強い地域です。また、ＪＲ竜野駅周辺には、比較的小規模の宅地開発が相次ぎ、住宅、農地が混在しているため、道路や公園などの基盤整備による計画的な土地利用が必要です。本地域の北部と南部には、農地が広がり、ゆとりある田園集落が形成されています。

◆地域の人口特性

〇平成 22 年（2010 年）の人口は 12,657 人で、平成 52 年（2040 年）には 10,046 人と 2,611 人が減少する見通しです。

〇片島、半田、新在家などにおいて特に人口減少が大きくなる見通しです。

〇平成 22 年（2010 年）の高齢化率は 22.5%で、全地域で最も低くなっていますが、平成 52 年（2040 年）には 35.4%と高くなります。なお、高齢者人口は 703 人の増加となる見通しです。

◆都市計画マスタープランにおけるまちづくりの目標

〇交通利便性を生かした拠点づくり

〇水と緑を生かした体験型レクリエーションによる自然と共存するまちづくり

〇工業・農業の振興による活力あるまちづくり

◆まちづくりの方針

〇商業、教育文化、行政機能などの多様な既存の都市機能を維持・活用するとともに、ＪＲ竜野駅周辺整備に伴うコミュニティ施設や商業、医療などの新たな生活利便施設等の誘導を図ることにより、地域核にふさわしい魅力と活力ある市街地の形成を進めます。

〇特にＪＲ竜野駅周辺及び国道２号沿道地区においては、商業施設などの立地誘導を図ります。

〇ＪＲ竜野駅周辺整備及び鉄道駅などの交通利便性を生かした新たな住宅地の供給、空き家等を有効活用した良質な住宅ストックの供給により子育て世代・若者世代の転入促進や、ＵＩＪターンなどによる移住・定住促進を図ります。

〇ＪＲ竜野駅周辺整備事業を進め、地域交流センター及び（仮）駅南黍田公園の立地の誘導を図り、魅力と活力ある都市交流拠点づくりを推進します。

〇都市防災機能や防災体制の強化による安全・安心なまちづくりの推進を図ります。また、揖保川、馬路川、前川などの河川改修を促進するとともに、建築物の耐震化、避難路の整備等の防災基盤整備を進め、安全な住宅地を確保します。

（４）御津地域のまちづくりの方針

◆地域の現況

〇御津地域は、市の南端に位置し、東は姫路市、西は相生市に接し、南は瀬戸内海に面しています。また、室津、岩見漁港を中心とした水産業とともに農業が重要な基幹産業です。市街地については、国道 250 号沿道の釜屋・苅屋地区を中心に形成されています。

〇関西随一の干潟である新舞子浜や綾部山梅林等は、瀬戸内海国立公園に指定されているほか、室津地区には、賀茂神社・見性寺・浄運寺をはじめとする歴史的文化財・遺産や町並みがあります。

◆地域の人口特性

〇平成 22 年（2010 年）の人口は 11,286 人で、平成 52 年（2040 年）には 8,432 人と 2,854 人が減少する見通しです。

〇市街化区域の大半において特に人口減少が大きくなる見通しです。

〇平成 22 年（2010 年）の高齢化率は 27.0%で、平成 52 年（2040 年）には 36.1%と全地域で最も高くなりますが、人口減少率も最も高いため、高齢者人口は 10 人減少となる見通しです。

◆都市計画マスタープランにおけるまちづくりの目標

〇海の風景や歴史的町並みを生かした観光地づくり

〇水と緑に調和した人にやさしいまちづくり

〇魅力的な農水産物による交流づくり

◆まちづくりの方針

〇商業、教育文化、行政機能などの多様な既存の都市機能を維持・活用するとともに、商業、医療などの新たな生活利便施設等の誘導を図ることにより、地域核にふさわしい魅力と活力ある市街地の形成を進めます。

〇特に国道 250 号沿道地区においては、商業施設などの立地の維持・誘導を図ります。

〇住居専用地域による良好な住環境を生かし、空き家等を有効活用した良質な住宅ストックの供給により子育て世代・若者世代の転入促進や、ＵＩＪターンなどによる移住・定住促進を図ります。

〇揖保川や瀬戸内海国立公園などの自然景観と室津地区の歴史的景観形成地区における歴史的文化財・遺産や町並みを保全・活用し、魅力ある観光拠点づくりを目指すとともに、道の駅みつを観光・情報交流拠点として機能充実に努め、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

〇都市交流拠点にある御津総合支所は、近接する御津文化センター、公民館等の機能を複合した施設として建替えを検討し、生活利便性の高い市街地形成を目指します。

〇都市防災機能や防災体制の強化による安全・安心なまちづくりの推進を図ります。また、富島川の改修を促進するとともに建築物の耐震化、避難路の整備等の防災基盤整備を進め、安全な住宅地を確保します。